

英語教育改善プラン推進事業 における成果： やり取りに焦点を当てて

田中 武夫（山梨大学）

2023年2月10日
英語教育改善推進事業 成果発表会

英語教育改善プラン推進事業

- ① 児童生徒の**発信力**の向上
- ② **言語活動・やり取り**の充実
- ③ **パフォーマンス評価**の充実

推進事業の成果物の一部

- ① 各研究指定校の**授業動画**
- ② 新学習指導要領のもとでの**指導案**の例
- ③ **パフォーマンス評価**の例



新学習指導要領での5領域と3観点

領域	Reception 受容		Production 産出	
	聞くこと	読むこと	話すこと やり取り 発表	書くこと
知識・技能	特徴や決まりを理解し、内容を捉える		簡単な語句や文を（正確に）用いて表現する	
思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて情報、概要、要点を捉える		目的や場面、状況などに応じて（適切に）内容を表現する	
主体的に学習に取り組む態度	・思考・判断・表現の活動に粘り強く取り組む ・見通しを立てる・振り返る・学習を自覚的に捉える（自己調整）			

話すこと（やり取り） Small Talk

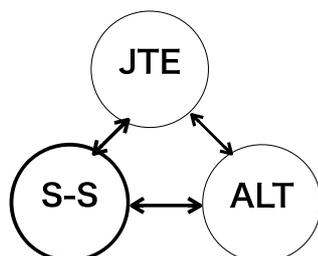
Small Talkとは？

即興で

- ・身近な話題について、**教師と児童生徒**、あるいは、**児童生徒同士**がやり取りする活動
- ・**既習表現**を繰り返して使用できるようにしてその**定着**を図る
- ・**対話を続ける**ための基本的な表現の定着を図る

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』をもとに改編

授業の中での英語でのやり取り



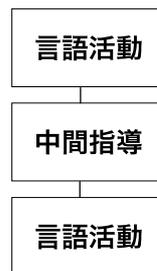
児童生徒同士のやり取りを継続させるためのポイント

ポイント	相手が I like winter. と言った場合	相手が I can play the piano. と言った場合
繰り返し	Winter.	Piano.
言い換え	You like winter.	You can play the piano.
リアクション	I see.	That's nice.
関連する質問	Why do you like winter?	What is your favorite song?

教師と児童生徒のやり取り の中でのポイント

	ポイント	例
教師のモデルを通し 表現に触れさせる	繰り返し	Summer.
	言い換え	You like summer.
	リアクション	I see. / That's nice.
	関連した質問	Why?
教師の支援をもとに 表現を引き出す	日本語でヒントを出して表現を思い出させる	「私は泳ぐことが好きです」 って英語でどう言うんだっ け？
	途中で英語を言って表現を思い出させる	I like...?

中間指導（教師の問いかけ）



指導目標（表現・内容面）の
達成のための指導

10

教師の英語を分かりやすくするポイント

Model/Mime	ジェスチャーを用いたりビジュアル情報を示しながら話す。
Example	具体例などを使って話す。
Redundancy	英語の表現を言い換えたり、発想を変えて話す。
Repetition	繰り返しながら話す。
Interaction	生徒とやり取りしながら話す。
Expansion	生徒の発話の誤りを何気なく訂正したり、言い換えて話す。
Reward	生徒の発話に対して積極的にほめる。

(渡邊・酒井・塩川・浦野, 2003)

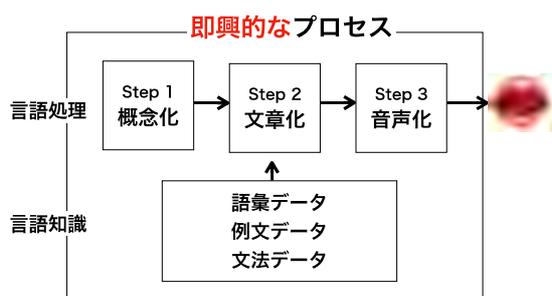
やり取りは授業の
至る場面ですぐできる

やり取りは楽しい

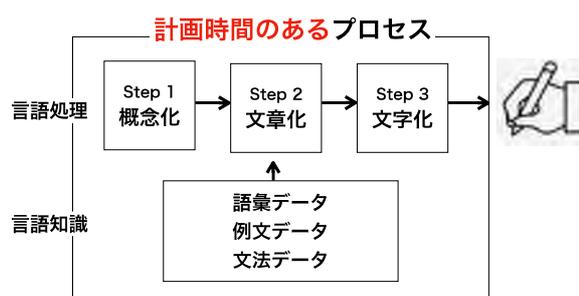
教師や他の児童生徒の
モデルに何度も触れる

児童生徒は何度も
繰り返し表現する

スピーキングのプロセス



ライティングのプロセス



実践校から学びたいこと

酒井英樹(信州大学)

山梨県英語教育改善プラン推進事業

- **言語活動** (リアリスティックな活動からリアルな活動)
 - 海外とのオンライン交流 (丹波小学校, 葦崎小学校)
 - お土産を送る (手紙をつける必然性)
 - ALTが喜ぶピザを協力して作り, 紹介しよう。(丹波小学校)
 - 目的: ALTに喜んでもらうため (ALTに尋ねながら)
 - 場面: 給食のメニューを考える場面
 - 状況: ALTに・友だちに
 - 自分のことをよく知ってもらったり, 相手のことをよく知ったりするために, 自分たちの町にあるもの, あったらしいものについて自分の考えや気持ちを伝え合う。(葦崎小学校)
 - 目的: 自分のことをよく知ってもらうため・相手のことをよく知るため (葦崎市の紹介+自分のこと)
 - 状況: 友だちに
 - 自分のことをよく知ってもらったり, 相手のことをよく知ったりするために, 将来の夢について自分の考えや気持ちを伝え合う。(葦崎小学校)
 - 目的: 自分のことをよく知ってもらうため・相手のことをよく知るため (自分の夢+質問力)
 - 場面: 教室で話す場面 (アメリカの中学生と交流する場面)
 - 状況: 友だちに (アメリカの中学生に)
 - 河口湖に訪れる世界の人々に富士山の周りの生き物の魅力を伝える。(小立小学校)
 - 教科横断的な学び (総合的な学習の時間の学び)
 - 目的: 生き物の魅力を伝えるため (みんなの知らない情報を)
 - 状況: 友だちに・下級生に (わかりやすく伝える)・海外の人に+ポスタを作って

山梨県英語教育改善プラン推進事業

- **言語活動** (リアリスティックな活動からリアルな活動)
 - 10年後、クラスのみんなで行きたい「おすすめの都道府県」について、自分の考えや気持ちを友達と伝え合う。(常永小学校)
 - 目的:クラスのみんなで行く場所を決めるために(相手に気に入ってもらうために) (相手の好みに応じて紹介する)
 - 状況:友だち
 - メニューやメッセージを入れたカードを作ってプレゼントして友だちに喜んでもらうために、友だちとやり取りをする。(睦合小学校)
 - 目的:友だちに喜んでもらうため(スライドに思いを書くように求める。「〇〇さんが好きなものにしました」)
 - 場面:カードを作る場面
 - 状況:友だちに+1000円以内で

目的・場面・状況等を設定
児童がワクワクするような
教科横断的な内容を
リアリスティックからリアルに
「思考力、判断力、表現力」

山梨県英語教育改善プラン推進事業

• 言語活動を通じた指導

- Try! → 中間評価 → Challenge（韮崎小学校）合言葉・・・**トライ・トゥー（中）・チャレンジ**
 - 中間評価
 - タブレット録画
 - 良い点の気付き
 - ルーブリックに基づく振り返り
 - 三つの柱からの指導・・・「代表児童のやり取りの様子を見て、良かったところや改善点などを、**言語面, 内容面, コミュニケーション面**の3つの視点から児童に考えさせることができていた。」
- 言語活動 → 中間評価 → 言語活動（小立小学校）
 - 言語活動
 - Jamboard 発表を考えるツール
 - 中間評価
 - Google スライドのコメント機能
 - 振り返り
 - **次にどう生かしたいですか。（「学びに向かう力、人間性等」）**
- Let's Talk → 中間指導 → Let's Talk → 中間指導（加納岩小学校）
 - 相手をかえて・・・「相手の反応や感想をもとに、さらなる表現の充実へ・質問によって思いが引き出される可能性」
 - 中間指導・・・(1) 代表児童から **(2) 学習者用デジタル教科書**
- 単元構成（小立小学校）
 - **バックワードデザイン**
 - **類似の言語活動の繰り返し**

山梨県英語教育改善プラン推進事業

・ 丹波小学校

- ・ CAN-DO の作成と活用 (教職員や子どもにわかりやすい表現, **大きい can-do** と **小さい can-do**)

・ 韮崎小学校

- ・ 教職員みんなで課題を設定・・・「言語活動の充実を通して」をテーマにしよう。
- ・ 目的・場面・状況等に応じた「思考力、判断力、表現力等」の表れを具体的なやり取りとして想定している。
 - ・ 韮崎市の説明+自分のこと。
 - ・ A: Oh, we don't have a zoo. I see. **Do you like animals?**
 - ・ B: **Yes, I do. I like giraffes. How about you? What animal do you like?**
 - ・ A: **I like lions.**
 - ・ B: **Oh, you like lions. Me, too. So, I want a big zoo.**
- ・ 「思考力、判断力、表現力等」・・・「思考、判断、表現に関しては、自分のことを「詳しく」伝えることのみならず、「関係する質問」「具体例を挙げる」「会話を楽しんでもらえるように話題を広げる」「相手を励ます」などの「相手を思いやった言動」の大切さや重要性を再確認することができた。」

・ 常永小学校

- ・ CAN-DO の改良 (指導と評価に使えるように)
 - ・ 具体的な表現に
 - ・ パフォーマンス課題を設定
- ・ パフォーマンス評価規準・評価規準
 - ・ 具体的な姿を想定しているので評価がぶれない
 - ・ 評価シートの工夫
 - ・ **児童の姿を評価している**
 - ・ **質問している (24% → 95%)**
 - ・ **返答に応じて (2学期・・・25%) 継続して指導**

思考・判断・表現 A (本単元)	思考・判断・表現 B (本単元)
<p>【話し手】</p> <ul style="list-style-type: none">・「おすすめの都道府県」について、聞き手側に共感してもらうために、既習の語句や表現を用いて、聞き手の意向を尋ね、返答に応じて、おすすめの理由を伝えている。 <p>【聞き手】</p> <ul style="list-style-type: none">・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問し、さらに自分の考えや気持ちを伝えている。	<p>【話し手】</p> <ul style="list-style-type: none">・「おすすめの都道府県」について、既習の語句や表現を用いておすすめの理由を伝えている。 <p>【聞き手】</p> <ul style="list-style-type: none">・相手の「おすすめの都道府県」でできることを質問している。

山梨県英語教育改善プラン推進事業

・ 加納岩小学校

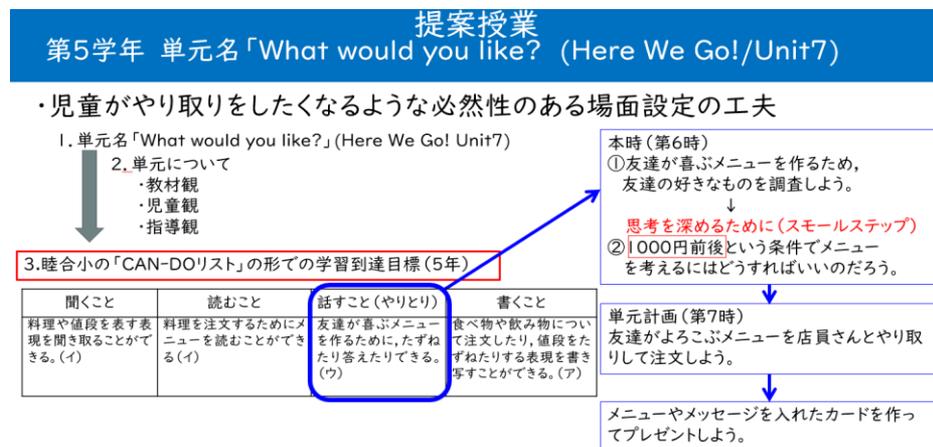
- ・ 個別最適な学びと協働的な学び
- ・ 学習者用デジタル教科書の学び方の提示
 - ①音声に合わせて声を出そう
 - ②“ちょっとおぼつかしいこと”に挑戦しよう
 - ③字幕表示は、10回聞いて内容を予想してから
 - ④十分慣れたら音と字幕表記とを一致させよう
 - ⑤自分の課題を解決するための学習をしよう

※④は6年のみ

・コンテンツごとの使い方の研究

・ 睦合小学校

- ・ Small Talk リスト(地域, 季節, 児童に応じて)
 - ・ 意図的に指導したいことを盛り込む
- ・ CAN-DO リストの改良
 - ・ バックワードの授業作り



学習指導要領上の変更点

- 新たな学力観—三つの資質・能力—
 - 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
- 領域別の目標
 - 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表] 書くこと
- 学習過程
 - 「言語活動を通して」
 - 言語活動の例
 - 「(英語の特徴や決まりに関する事項)を理解したり練習したりする指導は必要に応じて行うこと。
 - 外国語教育における学習過程(主体的・対話的で深い学びの実現)
 - ①設定されたコミュニケーションの目的や場面, 状況等を理解する
 - ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し, コミュニケーションの見通しを立てる
 - ③目的達成のため, 具体的なコミュニケーションを行う
 - ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う



東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

英語教育改善プラン推進事業成果発表会

「中学校の先生方の実践研究から 学べること」

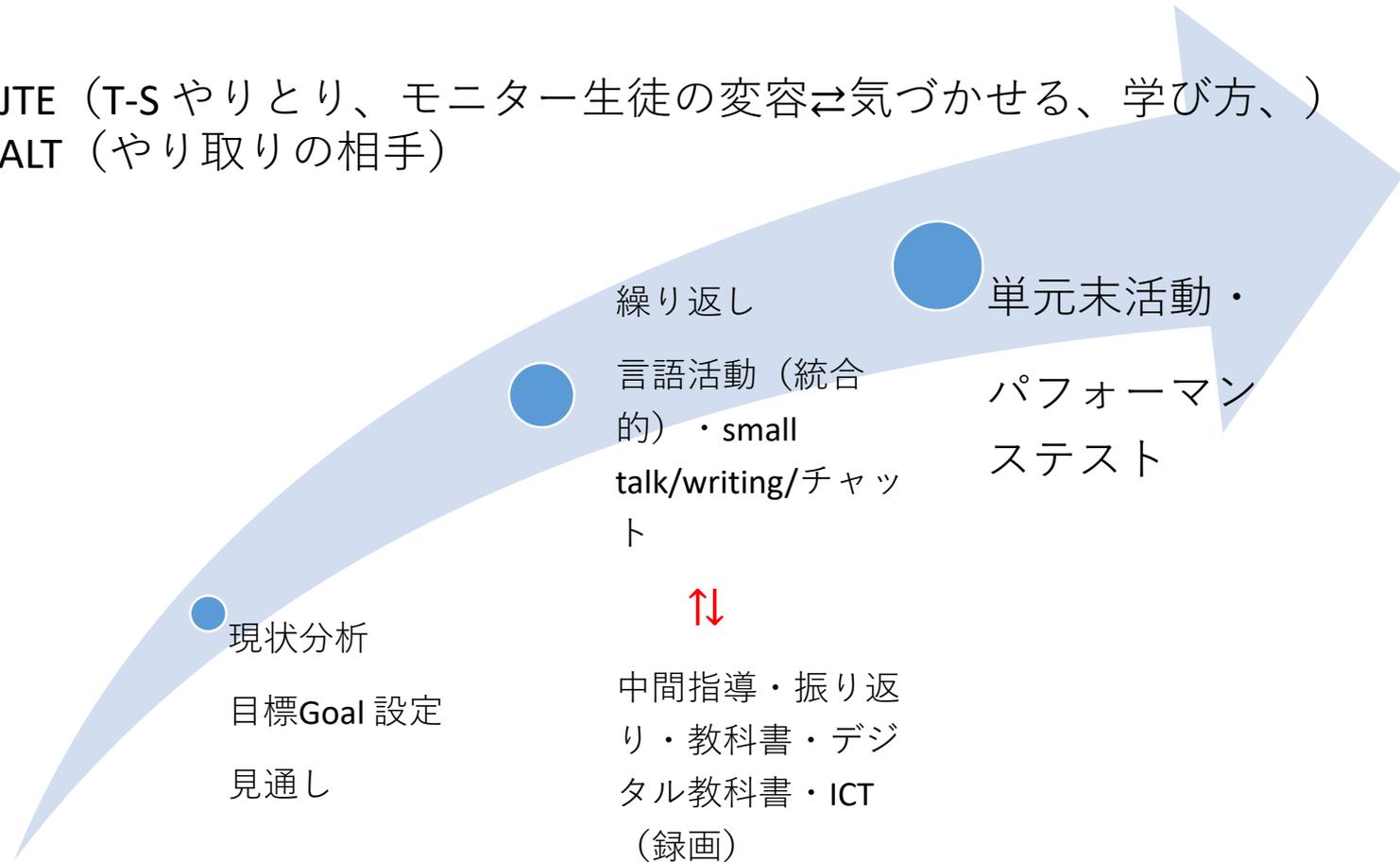
2023.2.10

太田 洋

東京家政大学人文学部

今回の実践研究のポイント

JTE (T-S やりとり、モニター生徒の変容⇒気づかせる、学び方、)
ALT (やり取りの相手)



河口湖南中

- 学習者デジタル教科書の活用_(3.提案授業)

「自分が使えそうな、使ってみたい表現に
アンダーラインを引き、知識を蓄積してい
く」

- 教科書本文＋リスニング活動の音声スクリプ
トの活用_(3.提案授業)

Do you want to go to an elementary school for your work experience? Why or why not?

- 単元を超えた知識の活用（応用）_(4.研究結果と考察)

押原中

- 教科書の内容と生徒を結びつける (Why do you come to school?)
“How about you?” “What do you think?”
の学び
- **small step** (授業の視点①②)
- 生徒の変容 「少しずつ」

長坂中

- ⑤ 気軽にコンスタントな「書く」活動(英語科の授業改革)
- ⑥ 雑談
- By the way, which character do you like, Tina or Eri?

- 相手・場面の意識

南西中

- 生徒にとってわかりやすいルーブリックの作成
→パフォーマンステスト＋通常のライティング
でもチェックリスト

(2.本校における具体的な取り組み内容 -1)

- 「話し手：聞き手：が「50：50」でやり取りする意識 (2.本校における具体的な取り組み内容 -3)

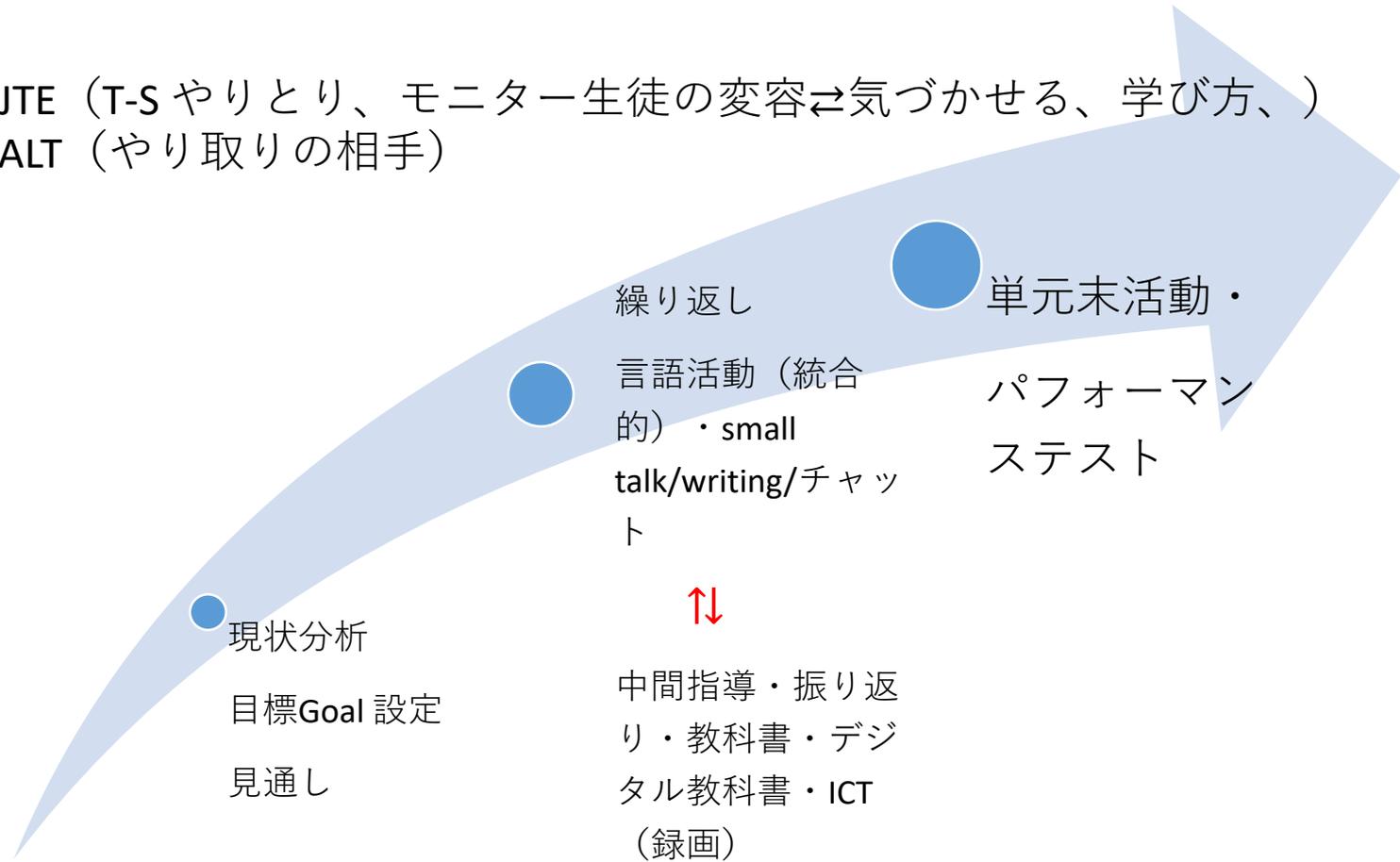
- よい「話し手」「聞き手」になるために (2.本校における具体的な取り組み内容 -3)

まとめ

- 確認と発見
- どこから次の一歩（半歩）を踏み出しますか？
- 出発点を知る → 変容を見る
(個人差、 Learning takes time.)

今回の実践研究のポイント

JTE (T-S やりとり、モニター生徒の変容⇒気づかせる、学び方、)
ALT (やり取りの相手)



1. 今年度の取り組みについて

2. 山梨県における英語教育の充実・発展に向けて

1. 今年度の取り組みについて

2. 山梨県における英語教育の充実・発展に向けて

1. 今年度研究指定校の取り組みについて

<成果>

- ・CAN-DOリストの見直し
- ・大きなCAN-DOから小さなCAN-DOへの意識改革
- ・「できるようになること」について生徒と共有

1. 研究指定校の取り組みについて

<課題>

- ・CAN-DOリスト→年間指導計画へ
- ・(引き続き)大きなCAN-DOから小さなCAN-DOへ
 - 言語活動やパフォーマンス課題・テストの妥当性・信頼性の担保
- ・「何ができるようになるのか」:
 - 目標達成に向けた授業づくりとその評価について生徒の姿の変容
 - 段階的な指導(タスクの設定)
 - 良質なインプットをどうするか「聞くこと」「読むこと」の指導

学習指導要領が変わる

生きて働く
知識・技能
の習得

外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・
表現力等の育成

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性の涵養

外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

自分の思いや考えを伝え合う
“言語活動”を通して育てる。

「外国語を使って何ができるようになるか」

- 四技能の総合的な育成・発信力の強化
- 目的や場面、状況などに応じて外国語でコミュニケーションを図る力の育成
- 五つの領域別の目標を学習指導要領に設定（小中高等学校を通じた）
 - 「聞くこと」
 - 「読むこと」
 - 「話すこと [発表] 」
 - 「話すこと [やり取り] 」
 - 「書くこと」

新学習指導要領では、全ての教科等の目標について、
①育成することを目指す資質・能力（何ができるようになるか）と、
②教科等の特質に応じた学習過程（どのように学ぶか）を明示。

「外国語を使って何ができるようになるか」

○五つの領域の力を総合的に育成（統合型の言語活動を充実）

→英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ

○発信力の育成をさらに強化

→論理・表現Ⅰ～Ⅲ

○英語による思考力・判断力・表現力を高める

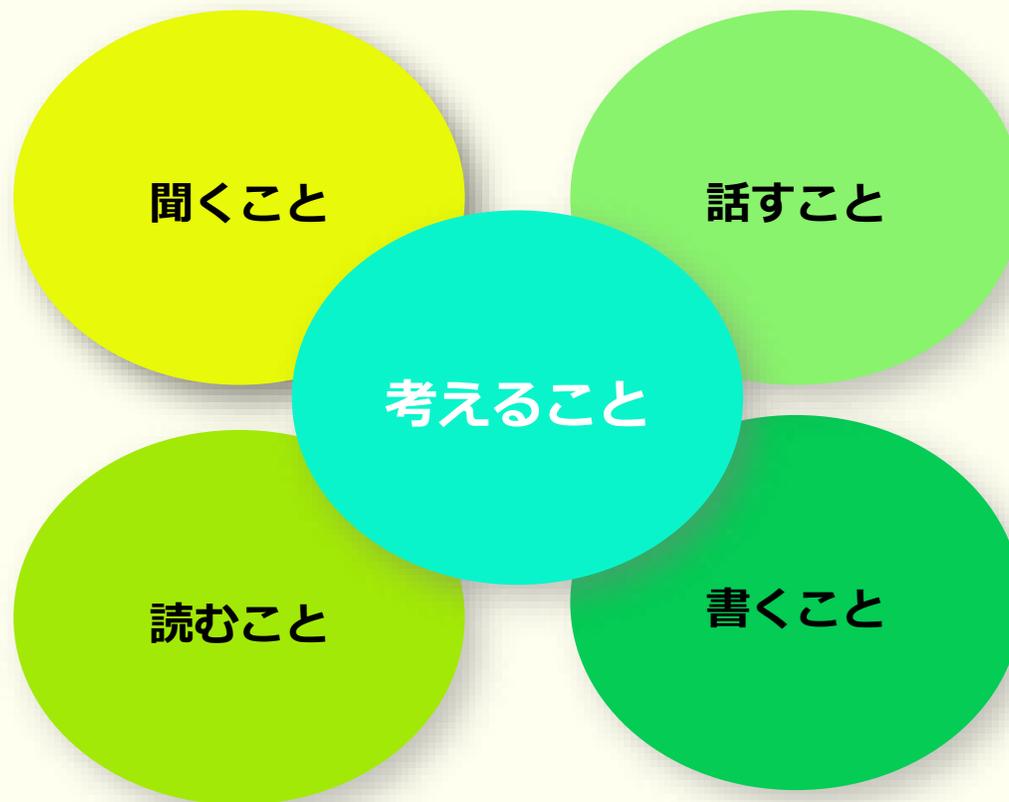
新学習指導要領では、全ての教科等の目標について、
①育成することを目指す資質・能力（何ができるようになるか）と、
②教科等の特質に応じた学習過程（どのように学ぶか）を明示。

言語活動を通して

言語活動及びこれらを結び付けた
統合的な言語活動を通して

コミュニケーションを図る資質・能力を育成する

四技能の統合には**思考力**の育成が核！



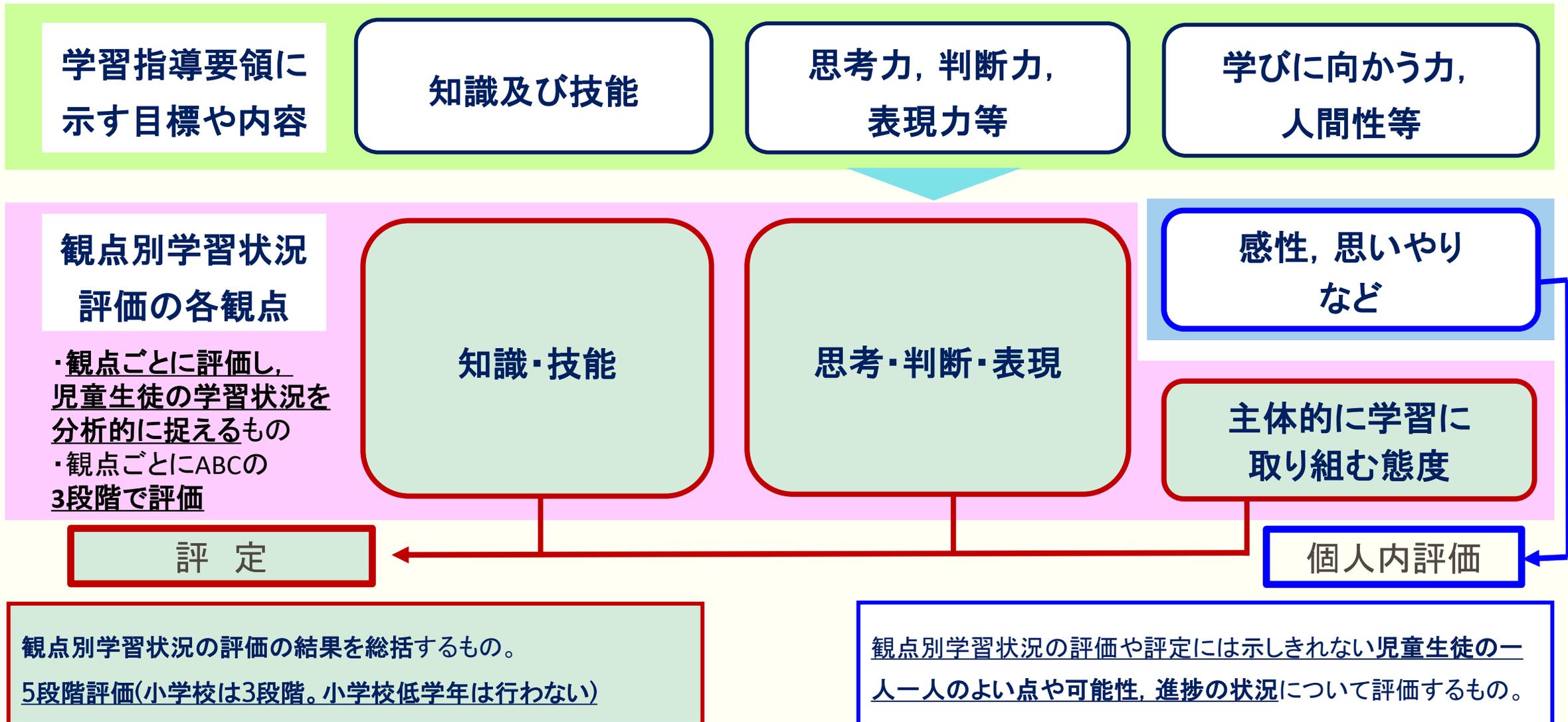
1. 今年度の取り組みについて

2. 山梨県における英語教育の充実・発展に向けて

学習評価が変わる

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



目標達成に向けた授業づくり

山梨県の高校英語教員の皆さんは素晴らしい!

To the next phase:

『この単元が終わったら

生徒は英語でなにができるようになるのか』

(大きなCAN-DOリスト) の形での学習到達目標

年間指導計画

(小さなCAN-DO リスト) 各単元における目標

評価方法の決定

各時の学習指導計画

学習到達目標・年間指導計画の見直し

明確な目標に基づいた授業・評価の改善

— 単元の目標の設定と単元の評価規準の設定

目標から評価までのつながり再確認

What should we do then?

教師が出来ること:

- **単元目標**を明らかにした授業づくりと評価の工夫をする。
- 教師自身が**英語でのinteractionの場数**を踏み
生徒と英語で**意味あるやり取り**をする。
- **生徒の脳が動く発問**づくりに努める。
教師自身が**トピックに興味を持ち楽しく学ぶ。**
- ICT等の活用

What should we do then?

英語科全体で出来ること:

- テスト: 年度 (学期) 始めに**出題内容と重点指導項目**を決めておく
- ワークシート: **何が重要かがわかる・どんな力がつくのか分かる**授業をする
- CAN-DO リスト: **単元目標 (小さなCAN-DOリスト) との紐づけ**
目標-指導-評価が線で結べるようにする
(目標・指導・評価の一体化)